

「A」次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 1 なくそ
①くするな ②めったにくない ③くできない ④決してくしない
- 2 いと
①たいそう ②それでも ③なるほど ④しだいに
- 3 やがて
①そっと ②そのまま ③どうしても ④やはり
- 4 いかで
①本当に ②どうして ③いつから ④もう
- 5 あまた
①急いで ②数人 ③少しずつ ④たくさん

「B」次の文の（訳）の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 6 げにただ人にはあらざりけり。（竹取物語）
（訳）「」 「（かぐや姫は）普通の人ではなかったのだ。
①ああ ②なるほど ③やはり ④けれども
- 7 女、いと悲しくて、しりに立ちて追ひ行けど、え追ひつかで、清水のある所に伏しにけり。（伊勢物語）
（訳）女は、ひどく悲しくて、（男の）あとを追って行ったが、追いつくことが「」 「、清水のある所に倒れてしまった。
①なさそうで ②できず ③できても ④大変で
- 8 いかでこのかぐや姫を得てしがな、見てしがな。（竹取物語）
（訳）「」 「このかぐや姫を手に入れたい、妻としたい。
①いつかは ②どうにかして ③早く ④なぜか
- 9 さらにまだ見ぬ骨のさまなり。（枕草子）
（訳）「」 「まだ見たことも」「」 「（みごとな扇の）骨のようすだ。
①それ以上はくはない ②きちんとくはない ③まったくくはない ④今までくはない
- 10 明けぬれば暮るるものとは知りながらなほ恨めしき朝ぼらけかな（後拾遺和歌集）
（訳）夜が明けてしまうと、（再び）日が暮れ（てあなたに逢え）るものとは知っているが、「」 「恨めしい（別れの）朝であることよ。
①やはり ②そうはいつでも ③なにより ④それゆえに
- 11 忠見、名歌詠み出だしたりと思ひて、兼盛もいかでこれほどの歌詠むべきとぞ思ひける。（沙石集）
（訳）忠見は、名歌を詠み表したと思って、（ライバルの）兼盛も「」 「これほどの歌を詠めるだろうか（いや、詠めないだろう）」と思った。
①だれか ②なんとかして ③いつかは ④どうして
- 12 前の世にも御契りや深かりけむ、世になく清らなる玉の男皇子さへ生まれ給ひぬ。（源氏物語）
（訳）（帝と桐壺の更衣は）前世でも「」 「が深かったのだろうか、世にまたとなく美しい玉のような皇子までがお生まれになった。
①身分 ②情愛 ③宿縁 ④関係
- 13 門をほとほとたたけば、やがて弾きやみ給ひぬ。（平家物語）
（訳）門をとんとんとたたくと、（小督は）「」 「（琴を）弾きやめなさった。
①一瞬 ②その後 ③しだいに ④すぐに
- 14 今日、風の気色はなはだ悪し。（土佐日記）
（訳）今日は、風や雲の「」 「がひどく悪い。
①流れ ②機嫌 ③動き ④様子
- 15 かくて、翁やうやう豊かになりゆく。（竹取物語）
（訳）こうして、（竹取の）翁は「」 「豊かになっていく。
①少しだけ ②一瞬 ③一気に ④だんだん

15 「」 「」

14 「」 「」

13 「」 「」

12 「」 「」

11 「」 「」

10 「」 「」

9 「」 「」

8 「」 「」

7 「」 「」

6 「」 「」

5 「」 「」

4 「」 「」

3 「」 「」

2 「」 「」

1 「」 「」

【新二年生用】 古文単語330三訂版 P 58 ～ P 66

- 15 〔 ④ 〕
- 14 〔 ④ 〕
- 13 〔 ④ 〕
- 12 〔 ③ 〕
- 11 〔 ④ 〕
- 10 〔 ① 〕
- 9 〔 ③ 〕
- 8 〔 ② 〕
- 7 〔 ② 〕
- 6 〔 ② 〕
- 5 〔 ④ 〕
- 4 〔 ② 〕
- 3 〔 ② 〕
- 2 〔 ① 〕
- 1 〔 ① 〕